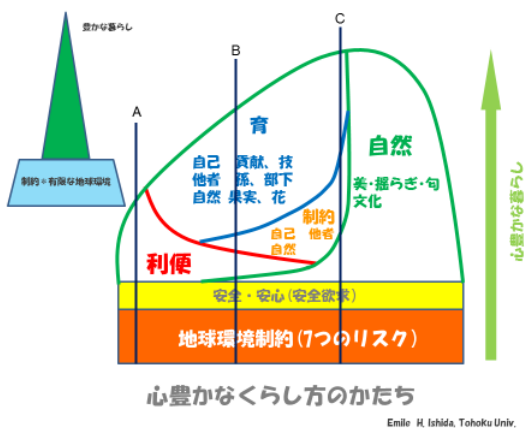


1. 主な活動

- ・ 2014年4月 東北大学を退職し、奄美群島 沖永良部島に移住。沖永良部島で、ネイチャー・テクノロジーの上位概念である、厳しい環境制約の中で心豊かに生きる(持続可能社会創成の基盤)ための『間抜けの研究』を開始。また、研究資金確保のため 合同会社 地球村研究室 を新設。
- ・ 論文総説など執筆 29報
- ・ 著書 小学校国語教科書(光村図書)『自然と暮らし』など6冊(共著を含む)
- ・ 報道 テレビ、新聞、雑誌など 76件
- ・ 講演(学術講演を含む) 70回
- ・ 賢材研究会 副会長、Earth Watch Japan 副理事長、ものづくり生命文明機構 副理事長ほか、文科省・環境省・農水省などの各種委員

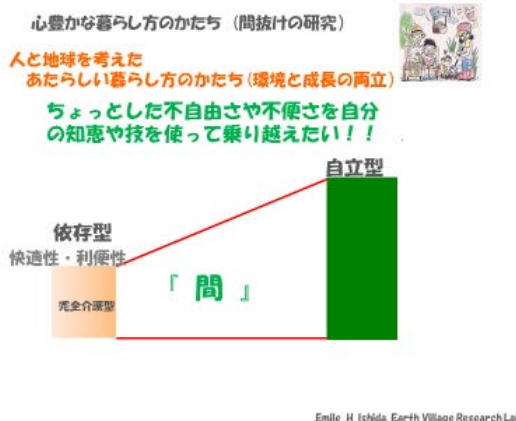
2. 間抜けの研究



心豊かな暮らし方のかたちを明らかにした (E.H. ishida, R.Furukawa “Nature Technology” Springer 2014)、A から C に向かうほど心豊かだと感じる暮らしとなる。特に B, C 領域は、制約をスキルや知恵で超える(ポジティブ制約)ことで、愛着や達成感を感じ、ものを大切にしたり、自分に自信が生まれる領域である。

ライフスタイル (LS) だけで考えれば、A 領域は依存型 LS、B/C 領域は自立型 LS であり、多くの生活者が自立型 LS を求めていることは、予兆も含めて明らかである。しかし、現実には自立型 LS への移行は進んでいない。

それは、自立型 LS と依存型 LS の間に『間』があるからだと仮定した。要するに、依存型 LS はますます完全介護型に進み、自立型 LS は自給自足という形しかない。依存型から自立型 LS への移行ステップがほとんど存在しないのである。



『間』を埋めるとはということなのか? そこにはどんなビジネスや政策が必要なのか? 間を埋めるライフスタイルとはどのようなものなのか? これら

らを、自立型の LS が色濃く残る沖永良部島で、体験/実践しながら、学問としてのロジックを明らかにしたいと考えている。同時に、沖永良部島で新規に創出した『間』の実装にも挑戦したいと考え、島人の方々と毎月『酔庵塾』(2014. 09より)を開催し、共に学ぶことも始めた。